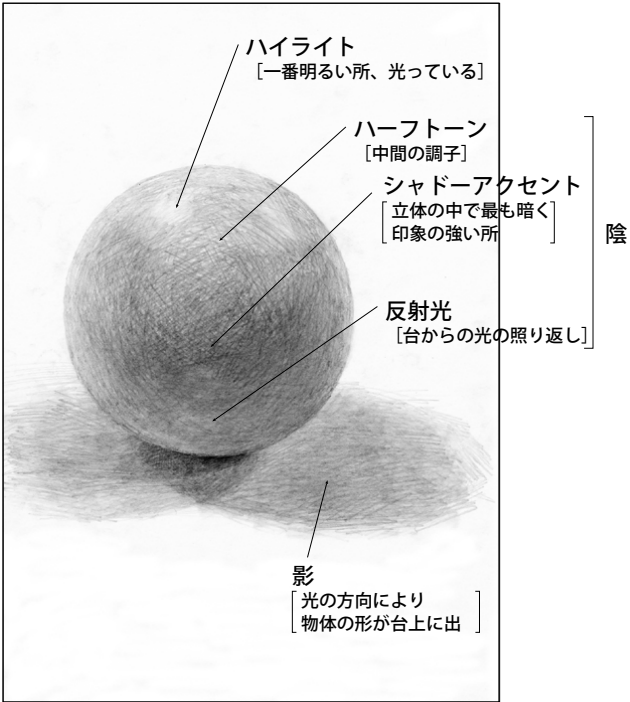


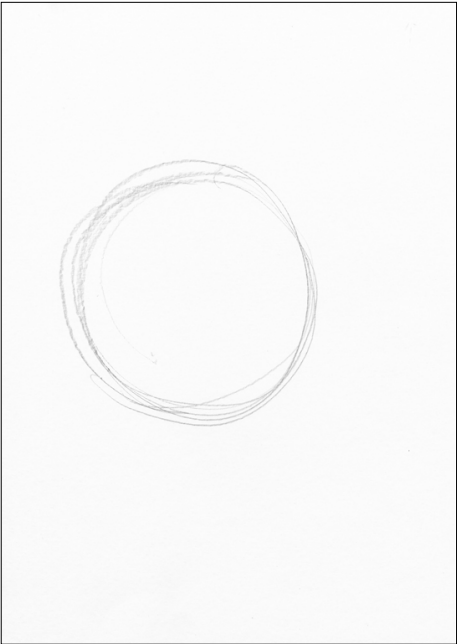
事前トレーニング課題 『球』

画材：鉛筆（2B程度）
用紙：指定の画用紙

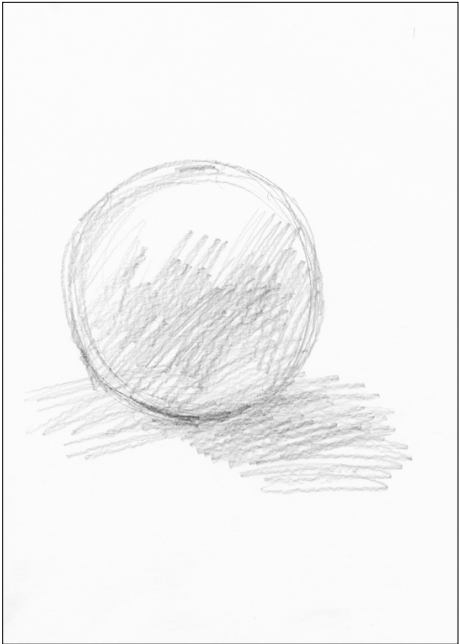
下図の手順を参考に完成図を指定の用紙に同大で模写してください。



1. 最初から綺麗な円を描こうとせず、大まかに形を捉える。



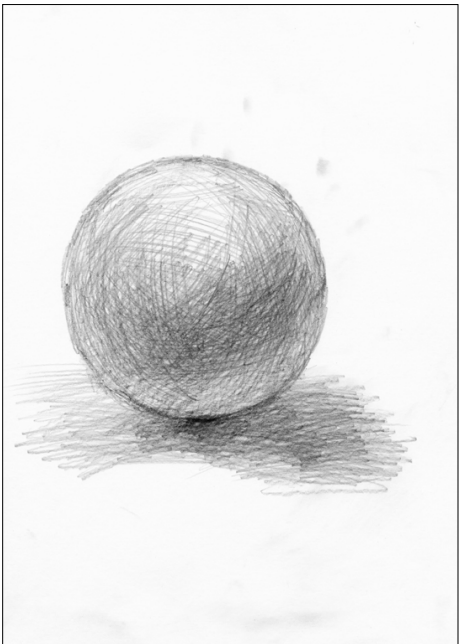
2. 軽く明暗を塗り画面のバランスを確認。小さくなった場合はこの時点で修正する。また、形を少しずつ修正していく。



3. 色の順番を作る。暗い順に、接地の影→シャドーアクセント→反射光→ハーフトーン→ハイライト。



4. 立体に沿って線を入れていく。（球体には曲線、影は直線）



完成図

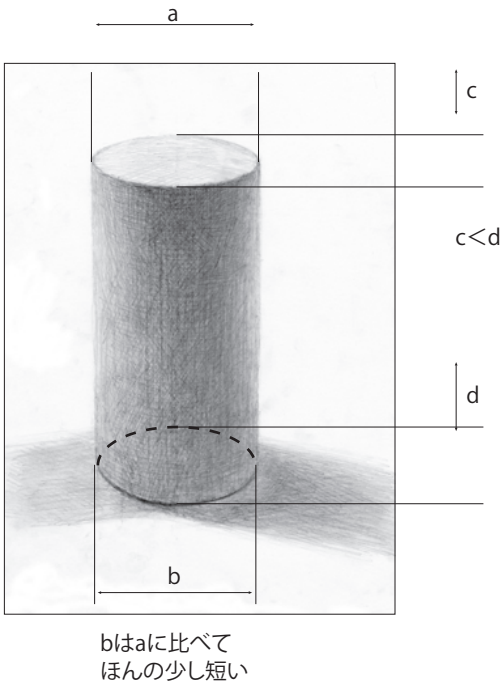
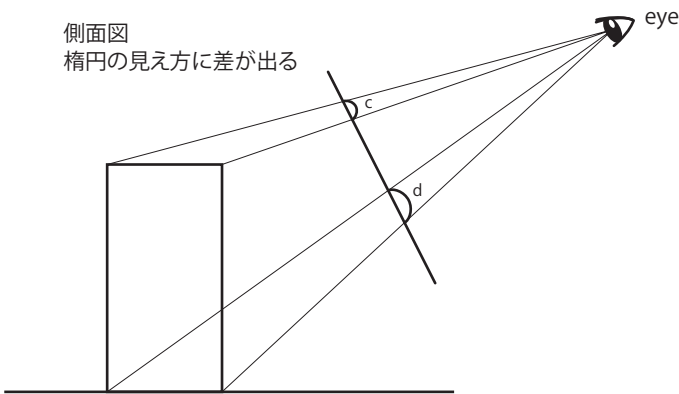


事前トレーニング課題 『円柱』

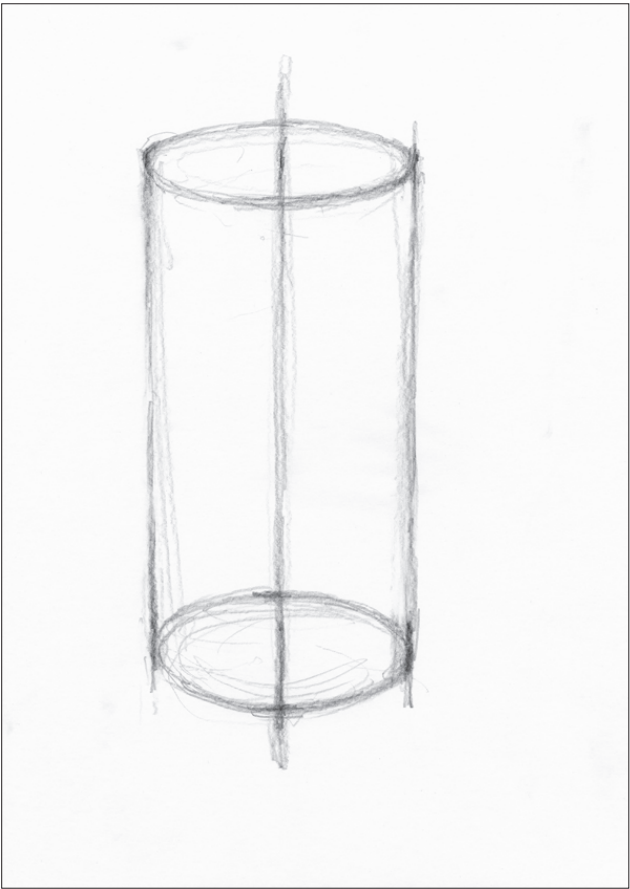
●身近にある円柱の形をした物をデッサンしましょう。
(例:缶ジュース/スプレー缶等)

□ 1～6の手順を参考に、
身近な立方体をデッサンして下さい。

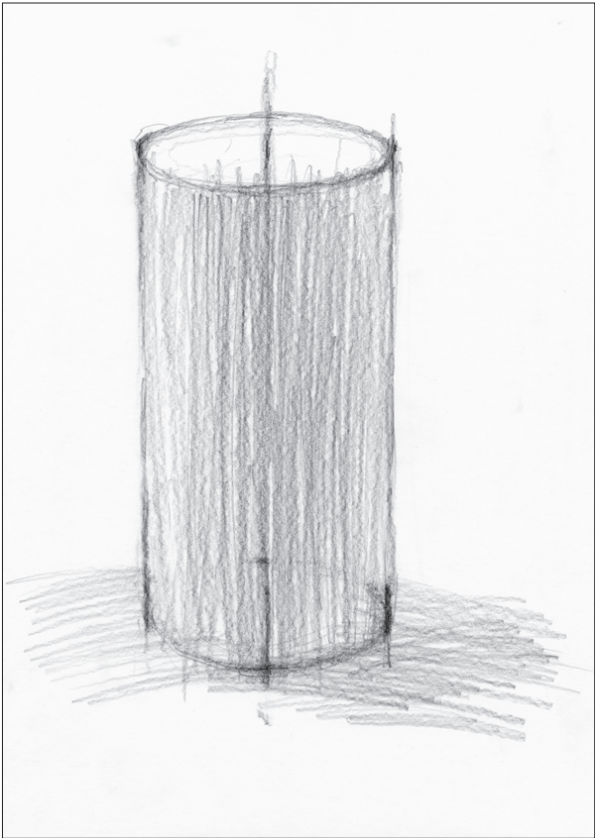
- 目的
- 1.円柱の立体感の表現を考える
 - 2.比率をよく見て、左右対称の形をとる
 - 3.楕円に慣れる



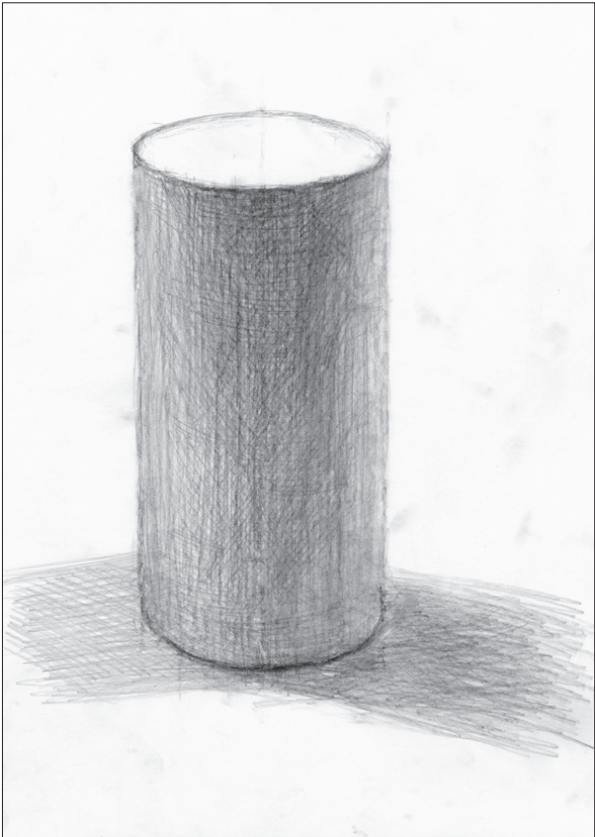
1 中心線を引いておきます。
まず、構図を考えながら第一印象で柔らかく形をとる。
左右対称を見る為に中心線も引いておく。
楕円の様子を見ながら、底の見えない所も描く。
ある程度外形ができたなら、実物と比較、自分の描いた
ものが太いと思ったら、左右を削る、もしくは上下を
少し長く、細いと感じたら横幅を広く。



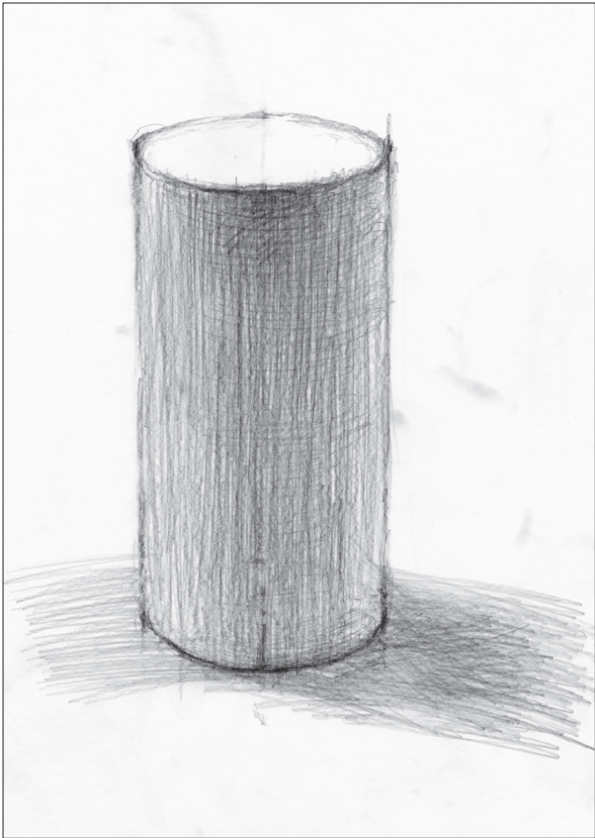
2 形を整えていくが、とにかく実物と見比べる時間をとる。
中心線は、用紙に垂直にまっすぐになるよう工夫。
中心から左右に同じ距離をとって、楕円の幅を決める。
上から少し見下ろすことになるので、下に向かってわずかに
幅が狭くなっていく。
実際は左右2mmずつくらい内側に。



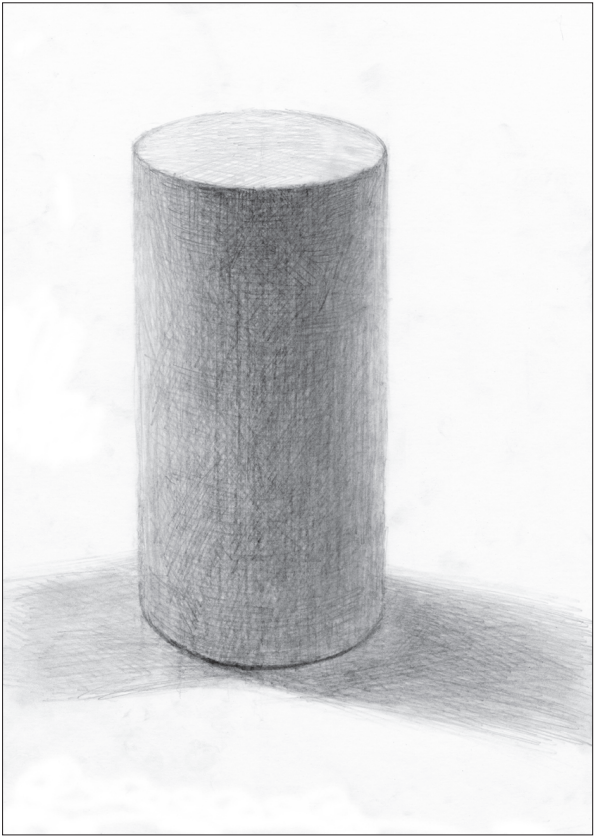
3 形の確認がある程度できたら、底の楕円の見えない部分を消し、側面(縦の面)を暗く。
まず、垂直に柔らかく直線を引く。直線を引く時は、
用紙を斜めにして一番線を引き易い角度にする。
また、途中で用紙を逆さにして引き足すと、線が整う
この段階で台上の影も少し描いておく。



5 鋭い線を増やす。円周に沿っての楕円、斜めのカーヴ、垂直線を入
れて中央のふくらみを引き出す。
また、左右の輪郭に近い所は、少し擦って色を柔らかくし、
まわり込む感じと反射光を表現。
反射光はモチーフのすぐ横に手をかざし、手で光を遮って
みると確認できる。
反射光の明度は全体のバランスを考えて表現。(上面の色と
比較)



4 中心線を消し、側面の中でより暗いところを作る。
明暗ができた段階で、特に上面の手前の角は、鋭い線で印象強く
すると立体感が出る。
線の疎密で明度を調整、また、形が甘くならないよう修正
を加えていく



6 影は物体から遠ざかるほど、徐々に柔らかく。
底面の向こう側のどこから影がでているか確かめておく。つま
り、底面と影の関係を考える。
上面は真っ白のままではなく、平面としての表情をつけて輪郭のピ
ントを調整し「完成」